

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500023		
法人名	社会福祉法人 京都南山城会		
事業所名	グループホーム 西木津ぬくもりの里 (あんず)		
所在地	京都府木津川市木津南後背30番地5		
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果市町村受理日	平成26年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2693500023-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年 2月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方に認知症への理解を深めて頂けるよう物忘れ勉強会を平成25年2月より2ヶ月に1回実施し、夏祭り、音楽祭、餅つきを開催し交流を図ることで、ボランティアの輪も広がり、日々のサークル活動や催しのご協力など、共に支え合う関係を図る事が出来てきている。ご家族様とスタッフ全員でのカンファレンスを実施し、ご本人様への思いや、希望などを共通理解することで日々の暮らしの充実を図っている。今年度はご家族様も参加して頂いた一泊旅行が実施出来た。そのことにより、一層より良い関係を築く事が出来た。最後まで自分らしく生き生きと過ごして頂けるよう支援している。環境面ではテーブル、椅子、ファンレストテーブルを設置し、トランスファ委員による勉強会を実施しスタッフの介助動作の統一を行い最後まで自立した生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念をもとにグループホームとして年度目標を掲げ、みんなと一緒に笑って暮らそうと職員の思いを集め日々の支援に生かしています。地域に向けた事業所の広報誌配布や、継続して取り組まれている物忘れ勉強会などは、事業所をより深く理解される機会となり、相談事で訪ねてくる方やボランティアがボランティアを誘うなど地域との深い絆が育まれています。職員は利用者本位の支援となるよう、担当利用者の介護計画を作成し、カンファレンスではそれぞれの職員の意見を集め、幅の広い支援になるよう努めています。利用者や家族の声、職員の思いをもとに今期一泊旅行が実現しています。家族も参加するカンファレンスでは、利用者の入居前の生活やエピソード等を聞き多くの情報を収集し、利用者の人となり理解した支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開設に向け職員全員でスローガンを作りを行った。一年間の目標を念頭に置き、職員間で共有し実践している。半年で見直しも行っている。	職員の声を集めて作られた理念に沿って毎年の支援目標を作っています。出会いと絆を大切に、みんなと一緒に笑って暮らそうとなどテーマを掲げ、半期ごとに支援の様子を振り返っています。職員は利用者の思いを探りその実現の中で笑顔の生活を引き出しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	万燈会、地藏盆など地域での活動に参加したり、夏祭り、音楽祭、餅つきなど地域の方々に参加していただける行事や催しを企画し交流している。広報紙2ヶ月に1回地域全戸に配布している。	自治会に加入し行事情報を得て小学校の運動会や、地藏盆、とんど祭りなどに参加しています。地域に事業所の広報誌を配布し、夏祭りや音楽会、餅つきには自治会長や老人会長を招き、地域にも声を掛け参加を得ています。またボランティアの関わりが次のボランティアの紹介に繋がる等地域に支援の輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた「物忘れ勉強会」を平成25年2月から2ヶ月に1回実施し、認知症に対する理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を実施し、ご本人様、ご家族様の思いや、地域住民代表の方々の意見も参考にし向上を図っている。	運営推進会議は、小規模事業所と合同で2か月に1度行われています。事業所の報告や地域行事の案内とともに、時には家族からの悩みや外出へのアドバイスなどの意見が出されています。出された意見は大切に職員間で話し合い、一泊旅行にも繋がり、利用者から感想の文章が報告されるなど充実した会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に参加頂き、日頃の活動及び今後の予定などを報告し協力関係を築けるよう取組を行っている。	市職員の運営推進会議への出席があり、研修案内が届き参加したり、敬老会の参加などの他、少しの疑問や気になることがあれば連絡を取り気軽に相談をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会活動での啓発も含め、日頃より身体拘束しないケアを法人全体での取り組みを行っている。夜間のみ施錠しているが、日中はせず、ご家族や職員が付き添い外へ出る機会を作りご利用者の行動の制限しないケアを行っている。	法人の専門部会に身体拘束委員を送り出し、定期的な研修に参加した担当者による伝達研修を行っています。尊厳が守られているか委員の確認などがあり、日々の話し合いの中で具体的な事例で勉強会が行われています。玄関も夜間以外は施錠せず、出かけた方には出来るだけ同行し、歩行の不安定な方は外気浴など周辺で気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加及び身体拘束委員会より定期的なアンケートが行われ、全ての職員の現状把握と虐待について周知できるよう取組防止に努めている。		

グループホーム西木津ぬくもりの里(あんず)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し制度を勉強する機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び担当スタッフが十分な説明を行い、理解、納得を図れるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口意見箱の設置し、要望等が受け入れられる体制及び迅速な対応が出来るように努めている。日々、意見していただきやすい環境作りに努め、何かあればカンファレンスや会議などで話し合う機会をもち運営に反映している。	毎年家族に向けた満足度調査が行われ、出された意見は職員間で検討し事業所として結果を報告しています。月々の便りの中の行事や日程案内を早く知りたいなどの意見に対しても早期の報告に切り替えるなど対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミニカンファ、月1回の職員会議、グループホーム会議などで、意見や提案が言える環境ができています。アンケートも実施しなにかあれば、随時、話しができる機会を設けている。	職員は日々の利用者への支援の中での思いを活発に意見交換をしています。会議に向けたアンケートで意見を出し合い、医療連携についての意見や家族に伝えることの難しさなどを話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価、面談を実施。努力、実績、勤務状況の把握、賞与に反映されている。いつでも話しに応じてもらえる環境が出来ている。 休み希望を聞き、勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、研修も定期的に行われ、外部研修にも行く機会がきちんと作られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学、研修の受け入れを含め、常に機会を作り、サービスの質の向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、看護師、リーダーが面接を行い、ご本人様の思いを受け止められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、看護師、リーダーが面接を行い、ご本人様の思いを汲み取れよう、詳しくお話を聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の希望を聞かせて頂き、他のサービスも考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いを配慮しながら、日々の関わりの中で、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なんでも相談し、ご家族様に協力をお願いし、共に支えていける関係を築ける体制作りを行っている。 必要時は随時、家族参加のカンファレンスを開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式のシートに今までの暮らしを落とし込み今までの関係性、今までの暮らしを保てるように配慮している。 面会、手紙、電話で古くからの友人と会話を楽しまれている方もあり支援している。	友人の来訪も多く、和みやすいように支援しています。利用者の意向を家族に伝え、季節の仏事を依頼するなどの支援や、趣味の継続のために稽古場を探したり、地域の地藏盆に行けるよう送迎するなど、これまでの生活への思いの実現に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や状態を出来る限り把握し、良い環境を提供できるよう努めている。 トランプやカルタなど利用者同志で楽しんだり、悩みを相談し合いながら支え合う関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様が施設に足を運んで下さり、ボランティアをして下さり、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プライバシーの確保にも留意し、趣味、嗜好を尊重すると共に、日頃の些細な会話の中でのご本人様の思いを汲み取り、引き出せるように努めている。又、ケアプランの作成にも繋げ把握している。	入居前に家族に記載してもらった情報から思いや意向を知り、職員間で共有しています。利用者や家族を囲んでカンファレンスを行い、生活歴や意向などを聞いています。入居後は日々の生活の中で聞いた言葉や表情から意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、入所時に今までの生活歴、既往歴など詳しくシートに記入して頂き情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、毎朝のミニカンファレンスを行い、職員間の連携を密にすることにより、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の思いや意向を汲み取り、現状に添ったケアプランを作成している。ご家族と職員全員が参加するカンファレンスを行い今までの暮らしぶりやそれぞれの希望を聞き取り介護計画を作成している。	利用者の思いの基担当職員が中心になって介護計画を立て、ケアマネジャーが統括し、状況によって医療の記録や意見を反映して作成しています。事前に家族から意向を聞いたりカンファレンスを行い、計画に反映できるように努めています。毎月モニタリング・評価を行い、随時の見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌の記入、申し送りノートの記入など情報を共有し、又、月1回ケアプランのモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況をしっかりと観察し、その時に合わせた対応を行い、柔軟な支援が行えるよう取り組んでいる。		

グループホーム西木津ぬくもりの里(あんず)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣とのお付き合い、ボランティアの方の協力の元、暮らしを楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりのかかりつけ医への受診、往診を継続してもらっている。 必要時、かかりつけ医とのカンファレンスをする等連携を密にしている。	基本的には今迄のかかりつけ医を継続し、受診は家族や状況に応じて事業所で支援しています。月1～2回の往診があり、歯科などは希望に応じて往診があります。家族と職員とは報告書類を中心に情報のやり取りを行い、看護師に24時間連絡が可能で指示をもらい対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の変化を常に申し送り、報告し、適切な対応が速やかに行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご利用者様の状態を確認し、退院時のカンファレンスを行い、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医にも参加して頂き、ご家族様にターミナルケアについての説明を行い、同意書を頂き、今後の話し合いを行い、ご本人様の思いに添った終末期を送っていただけるよう努めている。	入居時には家族に看取りの指針とともに、医療体制が整い家族の協力があれば看取り支援が可能であることを伝えていきます。時期が来たら再度意思確認し、医師から説明が行われ同意書を交わしています。医師や家族と何度も話し合う機会を設け、支援に取り組んでいます。研修や職員会議で振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議、勉強会等で訓練や対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設にて避難訓練を行っている。 年2回のうち1回は地域消防の指導の元行った。	避難訓練は年2回行っており、内1回は消防署の立ち合いを得て行い、初期消火、通報、避難誘導などの訓練と共に、事業所独自でも夜間想定訓練や消火器のある場所などを再確認し、習熟できるよう取り組んでいます。地域への声掛けや運営推進会議での報告を行い、地域の自営消防団と挨拶を交わし今後の協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、意識しながら、一人一人を尊重し、プライバシーを侵害しないような、言葉使い、対応、記録などを行っている。 言葉使いについての勉強会を職員間で実施している。	毎年の研修でプライバシーや利用者への尊厳に向けて職員の認識を高めています。特に排泄や入浴時の支援にはプライバシーに留意するように努め、馴れ馴れしくなり過ぎないように注意し合っています。まずは自分ならどうかという基本姿勢と共に、利用者の希望を聞くことに重点を置いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いが率直に言える関係性を築けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切にしながら寄り添ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の身だしなみだけではなく、美容サークルやアロマサークルなどを実施し、おしゃれに対する意識を常に持って頂けるような配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなものを日頃より聞かせて頂いて、食事のメニューに取り入れたり、楽しんで頂けるような企画を実施、準備や片付けも出来るだけ手伝って頂いている。本人の希望に沿った外食企画を実施している。	利用者の好みを聴きながら献立に反映し、毎日買い物に出かけ、利用者と共に出かける時もあります。利用者の好みや希望に応じ、居酒屋メニューで気分を変えたり、バーベキューや芋煮会、手作りのおやつなどで楽しんでもらっています。季節ごとに外食や出前をとり、個別の要望にも応えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量をチェック用紙に記録し、出来る限り水分を摂取して頂けるよう声掛けを行ったり、その日の体調により食事内容、量などを検討するようにしている。 管理栄養士が献立のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアをして頂き、清潔保持に努めている。		

グループホーム西木津ぬくもりの里(あんず)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用はせず、トイレへ案内しご自分の排泄が継続できるように取り組んでいる。 排泄チェック表を記入し、ご本人の排泄のパターンを理解し、その方に合わせた支援を行っている。	基本的にはトイレでの排泄を支援し、それぞれのリズムを把握し様子を見て誘導することで失敗を減らすよう努めています。日中は布パンツへの移行の中で蒸れがなくなる等、快適に過ごせるよう支援しています。家族と相談したり説明することによって、より利用者本位に繋がるよう最適な方法を探っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂って頂けるよう勧め、食事にも野菜料理の工夫、乳製品の摂取、朝の体操にて適度な運動にて便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回の入浴が多いが、ご本人の希望により入浴をして頂いたり、日中の間ではあるが、時間などもご本人の希望で入浴していただけるよう支援している。個浴を使用し車椅子の方も残存能力を生かしリハビリ浴を行っている。	入浴は週2~3回を目途に支援しています。時間や体調を考慮したり、夏場などではシャワー浴を組み込むなど利用者の声を反映しながら支援しています。職員と一対一の会話を楽しむ機会ともなっており、好みのシャンプーや石鹸で楽しむ方もおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のご様子を見て、休息して頂いたり、入眠して頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者様の内服票がユニット別に設置されている。臨時薬や追加、変更があった場合、随時、看護師より申し送りがある。服薬時は、服薬確認をさせて頂き、服薬後の状態確認もさせて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション、サークル、買い物、外食、外出などを出来る限り計画し、気分転換が図れるようにしている。 日々のお手伝い、ご本人の興味を持たれる趣味などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様のご協力もあり外出されている方もある。毎日、近所のスーパーに利用者の方と一緒に食材を買いに行っている。近隣に散歩にも出かけている。 外食や地域の交流に出かけられたりしている。	天気が良ければ毎日散歩をするようにし、買い物と一緒に掛けるなど外出の機会を多くとっています。初詣や花見、紅葉狩りなど地域の方々の協力も得て、季節の外出も楽しんでいきます。今期は利用者の思いを受けて、家族の参加を得た一泊旅行を楽しむことが出来ました。	

グループホーム西木津ぬくもりの里(あんず)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替えにて対応しているが、ご本人の意向もあり小銭を持っておられる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡は職員がすることが多いが、携帯電話を持っておられる方は自由に連絡されている。手紙のやり取りをされている方の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日ご利用者と一緒に清掃を行い、清潔を保ち、快適に過ごして頂けるように対応している。 季節を感じるような飾りや植物を置き、居心地よい空間作りを心掛けている。	玄関には大きな油絵や四季が感じられる絵画、利用者の書かれた習字などが掲げられ、季節の活花が飾られています。ユニット間での行き来ができ、ソファが随所に配置され、利用者の気分に応じた居場所作りを配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとつのフロアにて気の合ったご利用者とお話したり、ソファに座ってテレビを見たりしながら寛いでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ってこられ、居心地良く過ごしていただけるような工夫をされている。	入居時に居室の設えを家族に任せることを基本にしています。今迄の生活で身の回りにあったものや安心できるものを持参してもらい、利用者にとって自由な生活ができることを心掛け、時には利用者同士が談話をしたり一緒にテレビを見るなど居室での生活も楽しまれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、トイレ、風呂に一人で立てるようにファンテーブルの設置。フローには、ご本人の高さに合した椅子、テーブルを設置し、自らの力で出来るだけ動き、自立した生活が送れるように支援している。		